我々もづいぶん過去の争議で勝利し乍ら、この手でやられては組織を失なつてゐる。たとへば津田紡物にしろ東海電気にしろ中央バスにしろ、または服部蒼鶏にしても、ほとんどこの手でやられて居る。

「勝利の後には必づ資本家側は逆襲して来る！」といふ事を口ぐせの様に強調しながら資本家にしてやられるのは「口で強調してもそれに対する適確な対策をたてなかつた」からである。過去の貴重な経験を生かしすために我々は次の如き対策をたてゝ、積極的に分会を活動させてゐる。

1、全員の組織化と分会指導者養成の活動
2、工場新聞。研究会、座談会、分会委員会、分会総会を通じての教育活動
3、資金の積立て
4、調査の徹底化
5、同一資工場の組織化と連帯活動の強化

むすび

以上述べた黒石争議の教訓を綜合すると、

1、準備活動の威力の生きた教訓
2、基本戦略選定の重要さと生産の完全なる停止の必要の教訓
3、争議終了後の武装解除の危険性と適確な対策をたてゝ分会を争議中と同ぢやうに戦時意識で積極的に活動さす事の必要

浅井製桟工場の争議

この争議は黒石の場合とはまるつきり違つた條件のもとに戦はれた争議である

黒石とまるつきりちがつた條件とは

第一に準備斗争を完備してゐない争議であつてドタン場まで追つめられてから仕方なしにワアーッと起ち上つた無計画的な争議であつたと言ふこと

第二に最初から國家社会党（アカツヒヨ）に指導されてゐたと云ふこと

第三に仕事の一番閑散な時期に発生した争議だと云ふこと、

等である。黒石の場合とはまるで反対に悪い條件のもとに戦はれたこの争議は、加之て報道した通り要求の全部を獲得して大勝利で解決しておる。準備斗争の完備してゐないこの争議、仕事の一番閑散な時期な時故に発生したこの争議が何故大勝利で解決したのであるかし—

これを理解するためには次の要求項目を一見すればいい

A、一ケ月間に三十日分の仕事をさせろ！

B、箱折り一貫を箱一個に対して五厘値上せよ、等である。

Aの要求項目を承認しても資本家は痛くもかゆくも感ずることはないのであるから資本家が二つ返事で承認するのは当然の事ぢやあないか！

次のB項目の要求はどうかと云へば、他の一般製箱工場では箱一個の工賃は